大学生との意見交換会「学生と創る、未来の水戸」報告書

1　開催日時等

（1）日時　令和８年 10 月 20 日（火）13：30～15：50

（2）会場　常磐大学　総合政策学部　Ｒ棟　103 教室



2　参加者

（1）市議会議員　　10 名

（2）大学教員等（ファシリテーター）　４名

ア　常磐大学 総合政策学部 教授　　吉田　勉　氏

イ　常磐大学 総合政策学部 准教授　髙池宣彦　氏

ウ　常磐大学 総合政策学部 准教授　橋爪英輔　氏

エ　常磐大学 総合政策学部 法律行政学科　３年　武田 京 氏

（3）常磐大学生　　20 名

3　開催目的

大学生との意見交換を通して、将来の水戸を担う若い世代の意向の把握に努めるとともに、主権者教育の推進を図るために実施した。

4　実施方法等

（1）実施方法

学生と議員が混合の４つのグループに分かれ、ファシリテーターの進行により下記のテーマについて意見交換を実施した。

（2）意見交換のテーマ

ア　テーマ①「学生にとって住みやすいまち」

イ　テーマ②「学生の声が議会（又は議員）に届くようにするために」



５　主な意見

(1) テーマ①「学生にとって住みやすいまち」

・公共交通

大学生活の身近な問題点として、公共交通の利便性向上を求める意見が多かった。水戸市シェアサイクル「みとちゃり」を知らない学生もいることから、さらなる周知が必要との意見があった。

・防犯・安全対策

通学時に自転車を利用する学生が多いことから、自転車が走りやすい道路の整備を求める意見や、街灯が少ないため増設を望む意見があった。

・フリースペース

お金を払うことなく勉強や交流に活用できるスペースを拡充してほしいという意見が多かった。

・娯楽施設

駅周辺の商業施設の営業時間の延長や、水戸駅周辺への新たな娯楽施設の設置を望む意見があった。

(2) テーマ②「学生の声が議会（又は議員）に届くようにするために」

大学生が意見を言いやすくするために、ＳＮＳを活用した意見箱（オープンチャット）等を設置してはどうかとの提案が多かった。また、自分たちの意見が、どのように市政に反映されたのか公開してほしいとの意見も多かった。

そのほか、議会を知ってもらう取組として、大学内で市議会について考えるサークルを設立することや、授業の一環として市議会に関する講義を取り入れることなどの提案があった。

また、議会の活動のＰＲが若者に届いていないとの意見も多く挙げられ、その解決策として、定例会の質疑内容のショート動画を作成してＳＮＳで発信することや、興味のある議論にアクセスしやすいシステムを構築することなどの提案があった。

６　ファシリテーターの講評

(1) Ａグループ　常磐大学　吉田教授



学生に議会の情報が届きにくいことが課題である。現在、水戸市議会ではインターネットによるライブ配信や録画中継を行っているが、数時間に及ぶ映像の中から必要な情報を見つけ出すのは容易ではない。例えば、自転車の問題など、自分が関心のあるテーマの場面へジャンプできるシステムの導入等を検討していただきたい。

また、学生たちが最も関心を寄せているのは、「自転車・公共交通の使いやすさ」、「若者が集える場所」、「家賃やガソリン代の学割（生活支援）」といった、日々の暮らしに密着したテーマであった。議員からも努力したいとの回答があったので、期待したい。

意見交換の中では、住民から街灯の要望を受けた議員が、自ら動いて設置に協力したというエピソードが共有された。本来、議員の役割は市の執行部を動かすことだが、住民の声が届き、行

動につながったという事例は、議会や議員の在り方として意義があると考える。

約 30 年前の学生は、市議会が何をしているのかという疑問すら持たなかった。しかし、現在では、市議会は何をしているのだろう、傍聴に行ってみようか、など自発的に考えており、将来的に議員への立候補を視野に入れた学生も現れている。

学生の皆さんには、議員インターンシップなどの貴重な機会を積極的に活用し、社会人として成長することを期待する。このような機会を設けてくださった水戸市議会の皆様には心より御礼申し上げる。

(2) Ｂグループ　常磐大学　橋爪准教授



参加された皆様が非常に積極的に意見を出し、それに対するリアクションも素早く飛び交う活発な場となった。ファシリテーションに当たっては、参加者がどのように思考を巡らせるべきかというサポートに徹した。例えば、学生の声をどう届けるか、というテーマに対し、あえて高齢者の声が届きやすいシルバーデモクラシーの問題など、比較する視点を投げかけることで、議員の皆様からの回答を引き出し、さらに議論を広げることができたと感じている。

授業でも伝えていることだが、討論においては、問題をよく分析することで視野が大きく広がる。学生の皆さんには、今後も同様の議論の機会があれば、ぜひ問題の背景まで冷静に思いを巡らせながら、自身の考えを深めていってほしい。

(3) Ｄグループ　常磐大学　高池准教授



今回の意見交換会を通じて、学生たちにとって非常に大きな学びがあったと感じる。学生側も事前に学習、準備をして臨み、議員の皆様のお話を聞く中で、市として何年も前から取り組んでいることとして、ＰＲ動画の発信や歩道の拡張工事への働きかけ、シェアサイクルの拡充など、普段は伝わりきっていない市政の具体的な取組や活動を、直接その場で聞けたことは大変貴重な経験となった。

また、今後の重要課題として、若者の参画が挙げられる。本日参加した学生の中には、すでに他の自治体で総合計画の策定委員として会議に出席し、実際の政策形成に関わっている学生もいる。単発の意見交換会で声を拾っていただくことも大変ありがたいが、学生たちは、さらに一歩進んだ参画を望んでいる。特に、法律行政学科をはじめとする学生は、将来、水戸市をはじめとする地元の自治体や企業へ就職していく。そのため、早いうちから関わりたいという意欲は高いものの、どうすれば参加できるのか、どこから情報を得ればよいのかが分からないという声も少なくない。実際に情報や機会さえあれば、自ら挙手して各種委員に着任する学生もしっかり育っている。ぜひ今後とも大学にお越しいただき、関係性を深めていければ幸いである。

Ａグループの意見の概要

１　「学生にとって住みやすいまち」（テーマ①）

(1) 公共交通



- 街灯や自転車道の整備不足
- バスの本数不足
- 高齢者が運転する自転車の危険性を感じるため、交通マナー向上を周知してほしい。
- 夜間の防犯上の不安

(2) 集える場所

- 学生割引または無料で使える学習施設

  市民会館は満席になることが多いため、フリースペースを拡充してほしい。

  議員からは学習の場として議場の開放及び集える場として、傍聴席を開放してはという提案もあった。
- 充電スポットや無料Ｗｉ－Ｆｉが利用できる。

(3) 経済対策

- 家賃補助
- 通学用ガソリンの学割（物価高対策）
- 放課後に気軽に立ち寄れる安い飲食店

２　「学生の声が議会（又は議員）に届くようにするために」（テーマ②）

(1) 議会に届ける手段

- 議会中継動画の検索力向上
- 議会の中継が長いためショート動画を作成
- 議事録を要約し、政策・テーマ毎に集約、公表
- ＴｉｋＴｏｋやユーチューブなどのＳＮＳを活用し、意見がどう反映されたかを発信
- 小中高生を対象とした模擬議会開催
- 議会見学
- 大学で定期的に意見交換会を開催





Ｂグループの意見の概要

１　「学生にとって住みやすいまち」（テーマ①）



(1) 交流・コミュニティ

- 学生がお金をかけずに気軽に集まって交流ができる場所を増やす。学生は交流を求めており１人のスペースより大人数で集まれる場所が必要。
- 大学の近くにお店がある。
- 商業施設が充実している。
- 学割を利用して遊べるところがある。

(2) 交通・防犯

- 電車やバスの本数を増やしたり、最終便の時刻を遅くし、学生がアルバイトや通学しやすいまち
- 自転車が走りやすい道路の整備
- 防犯対策の強化（夜間のバイト帰りも安心して歩けるよう街灯や防犯カメラの増設）
- 交通費負担の軽減（地域共通の学生割引パス）
- 車を停める場所を増やす。

２　「学生の声が議会（又は議員）に届くようにするために」（テーマ②）

(1) 意見を伝えやすい環境

- 水戸市公式ＬＩＮＥ等のＳＮＳを活用した 24 時間受付のデジタル意見箱設置
- 学食や購買への意見箱設置
  ＱＲコード付の意見箱を置き、学食割引（100 円引きなど）で回答率を上げる。
- 学生の意見への回答を公開する。（議員や行政の考えをわかりやすく伝える）

(2) 情報発信等

- 大学で意見交換会を開催
- 市議会について授業の一環に取り入れる。
- 大学内で水戸市議会のサークルを設立する。
- 議会開催を土日にしてはどうか。





Ｃグループの意見の概要

１　「学生にとって住みやすいまち」（テーマ①）



(1) 交通系

- 歩道・自転車道の整備
- バスの本数増
- 交通系ＩＣ（Ｓｕｉｃａ）の非対応エリアの改善
- 終電の延長（夜 12 時頃まで）

(2) 学生支援

- 夜でも安心なまち（街灯の増設）
- 集中して作業できるフリースペースの設置
- 一人暮らしの学生への補助金

(3) 娯楽

- 水戸駅近くへの大きい公園や娯楽施設
- 水戸エクセルの営業時間の延長
- 駅周辺で飲食以外の店舗の増加

２　「学生の声が議会（又は議員）に届くようにするために」（テーマ②）

(1) 意見の募集・結果の公表

- 年２回の学生と市議会議員との交流会の実施
- 複数の大学へのアンケート実施とその結果（反映内容）の公表

(2) ＳＮＳの活用

- 公式ＬＩＮＥを使った意見募集
- 意見を発言できるオープンチャットの作成

(3) 情報発信等

- ライブ配信等の見方が分からない学生へ周知し、認知度を向上させる。





Ｄグループの意見の概要

１　「学生にとって住みやすいまち」（テーマ①）



(1) 市内の移動手段

- 通学や移動がしやすいまち（学生の授業時間に合わせたバス運行時刻の改善）
- 夜間の移動が困難（特に車がない人）
- 街灯の増設や歩道のない道路の安全対策
- みとちゃりの利便性向上

(2) 生活環境

- 複合娯楽施設
- 生活に必要な施設（スーパー等）が近くにある。
- 駅周辺で安心して過ごせるまち
- ワーク・ライフ・バランス
- ボランティアへの参加

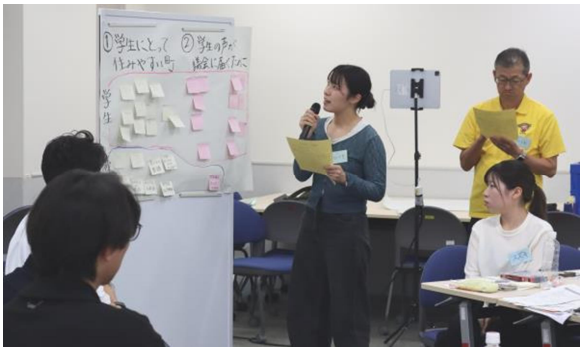
２　「学生の声が議会（又は議員）に届くようにするために」（テーマ②）

(1) 相談窓口

- ＡＩチャットを活用した相談窓口
- 回答の「見える化」（必ず返答してもらえる仕組み）

(2) 情報発信等

- 市議会ＨＰやＳＮＳでのＰＲ動画の活用による議会活動の情報発信
- 対面での意見交換会の定期開催
- 議会を傍聴する機会をつくり、議員との交流を増やす。
- 大学を通じた議員、議会の情報発信
- 意見へのフィードバックの公開





意見交換の流れ（概要）

【開会・議長挨拶】

事務局の進行の下、意見交換会を開会した。

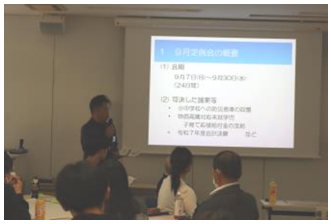
冒頭、袴塚孝雄議長が、議会代表として挨拶を行った。

次に、坂間副学長から挨拶をいただいた。



【９月定例会の報告・議会改革の取組紹介】

綿引健議会改革調査特別委員長が、水戸市議会の現状と９月定例会報告（議決した議案等）、これまでの議会改革の取組紹介を行った。



【事前説明】

事務局が、意見交換の目的やテーマ、ルール等の説明を行った。

【意見交換】

各自で名札を作成し、グループ内で自己紹介（名前、水戸と関わって〇年、水戸市内の好きなお店等）を行った後、テーマ①・②について意見交換を行った。



【意見発表】

各グループの代表者（学生）が、意見交換で出された意見等を発表した。発表後は、発表補助者である議員が、補足事項等について適宜発表を行った。



【講評（ファシリテーター代表）、閉会】

ファシリテーターの吉田教授、橋爪准教授、髙池准教授から、それぞれ今回の意見交換についての講評をいただき、意見交換会を閉会した。



大学生と水戸市議会議員の意見交換会「学生と創る、未来の水戸」　アンケート結果

１　集計期間

令和８年 10 月 21 日

２　調査対象

意見交換会に出席した常磐大学生 21 名

３　アンケート結果

回答数	21

(1) 意見交換はいかがでしたか。

回答	回答数	割合
とても良かった	17	81.0%
良かった	4	19.0%
どちらとも言えない	0	－
悪かった	0	－
とても悪かった	0	－

(2) 具体的にどんなことを感じましたか。（複数回答可）

回答	回答数	割合
自分の思いを話すことができた	14	66.7%
色々な人の意見が聞けてよかった	15	71.4%
話を聞いて、新たな学びや発見があった	15	71.4%
あまり話すことができなかった	1	4.8%
楽しめなかった	0	－

(3) 今回の意見交換を通じて、議会や議員に対するイメージは変わりましたか。

回答	回答数	割合
変わった	18	85.7%
変わらない	3	14.3%

(4) 前問で「変わった」を選んだ方にお伺いいたします。差し支えなければ、理由を教えてください。（自由記載）

回答
堅苦しいイメージではなく、柔らかいイメージに変わったから
議員さんと言うと堅いイメージがあったが、思ったより親しみやすい方が多かったから
堅苦しいものだと思っていたら、とても話しやすかったから
もっと堅いと思っていたので、気楽にできて良かったから
堅苦しいイメージが崩れて、親しみやすい雰囲気を感じたから
気さくで話しやすいと思ったから

回答
堅苦しいイメージだったが実際に話してみて、話しやすいイメージだったから
堅くて遠い存在に感じていたが、実際に話すことで話しやすい印象に変わったから
市議会議員と聞くと堅いイメージであったが、実際に参加してみて、親身になって話を聞いてくれたから
正直に話していただけて、明るい人たちも多いという印象に変わったから
議員の方々が優しく接してくれたから
お互いラフな感じで話し合うことができたから
今回の意見を快く引き受けてくれたから
自分が出した意見を一つ一つメモして、その場で実現の可能性や現在取り組んでいる施策について回答してもらえたことで、学生の意見にも真摯に向き合ってくれていると感じたから
実際に私たちの意見をフィードバックすれば、より良い水戸の未来を築けると感じたから
想像よりも、地域社会について密接に根付いており、いろいろな政策を推し進めていたから
議会が実際に行っている政策や、市民の意見を実際に活用している点

(5) 次回もこのような機会があれば参加したいと思いますか。

回答	回答数	割合
思う	19	90.5%
思わない	0	-
分からない	2	9.5%

(6) 次回の機会で、議員に聞いてみたい話題等があれば、記入してください。(自由記載)

回答
学生の奨学金について
図書館活用案のさらなる事例案
特有の取組
議員は仕事辞めているのか、議員と一緒に仕事もしているのか
今回の意見がどのように反映されたか
今回の意見交換会を通して、何か政策に取り入れたことや変わったことがあったのか

(7) その他、御意見や御感想、要望等があれば御記入ください。(自由記載)

回答
時間が足りないと感じた。
さらに、こういった機会を設けて欲しい。
意見の返答楽しみにしている。
実際に話してみて、お互いのこうしてほしい、こうしたいが高まるのかなと思った。近くで交流することで議員さんも質の良い議会になる気がした。
知らない制度などを知れて、面白かった。
ガクチカになればと思い、参加を決めた。始まる前はやや緊張していたが、いざ始まってみると、お互い気軽な感じで話し合うことができ、楽しかった。議員の方に直接自分の意見を言える機会はなかなかないため、貴重な体験だったと思う。参加してよかったと感じた。